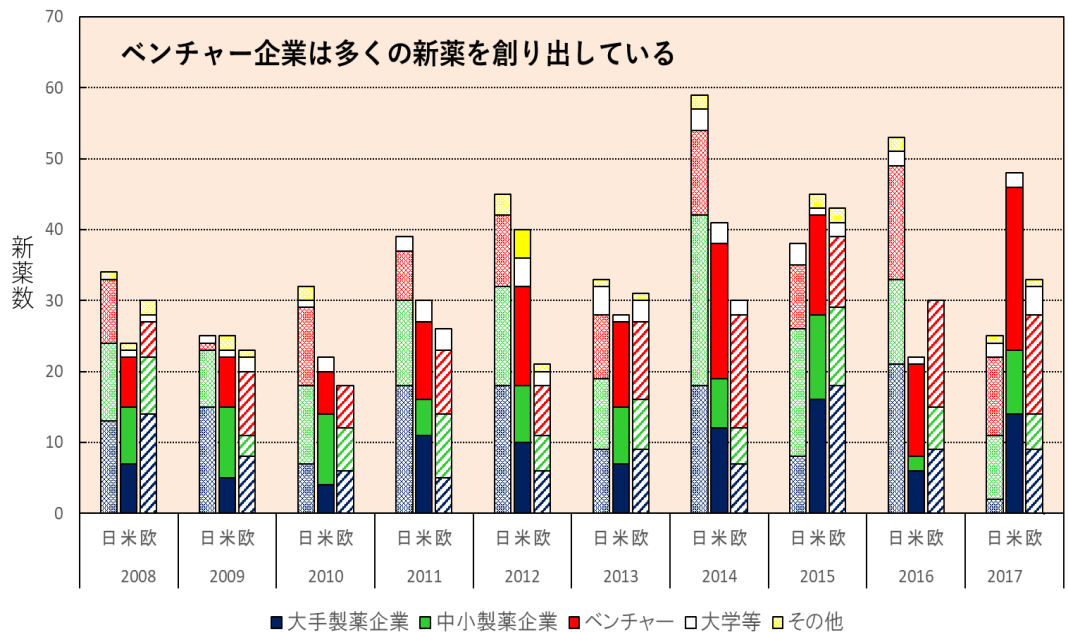


新薬はベンチャー企業から、は本当か？ (2)

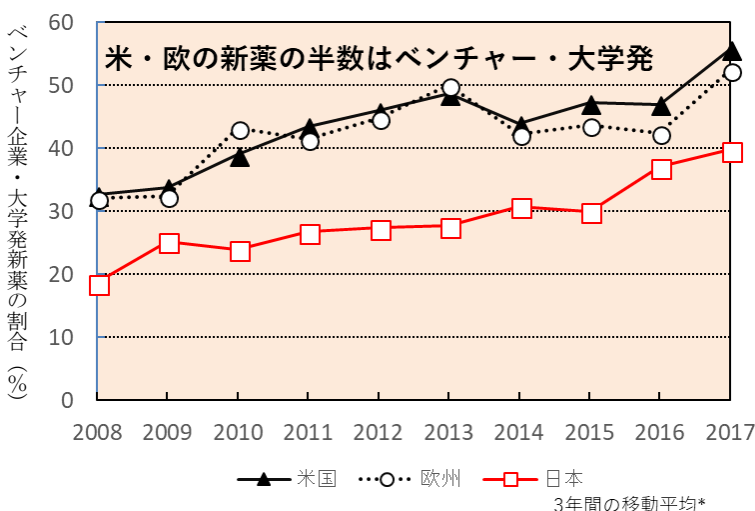
前回の報告では、新薬の臨床開発のゴールとなる承認取得に注目し、特に米国においてはベンチャー企業が重要なプレーヤーになりつつあることを示した。では、研究開発のスタートである新薬の創出の段階で、ベンチャー企業や大学の役割は変化しているのだろうか。以下では、ベンチャー企業やアカデミアが新薬のオリジネーターになる割合が年々増加し、米・欧では、ついに、新薬の半数以上がこれらの企業で創出されるに至っているデータを報告する。

2008～2017年に日米欧で承認された新有効成分を含有する新薬を解析の対象にし、それらのオリジネーターを、大手製薬企業、中小製薬企業、ベンチャー企業、大学等、およびその他に分類した(分類の基準は前号に記載)。各グループが創出した新薬数推移が右の図。ベンチャー企業・大学等発の新薬のうち、日本で承認された新薬は、2009年が2品目



出典：新薬の承認情報は独立行政法人 医薬品医療機器総合機構、アメリカ食品医薬品局および欧州医薬品庁のデータベースを、設立年は各社のHP、Bloombergを、特許はOrange Book、Google Patentsを参照し、主として物質特許を有する企業をオリジネーターとしてOUVCで作図した。

と最も少なく、2016年が18品目で最大、年平均では11.3品目である。大手製薬企業と中小製薬企業がオリジンとなる新薬の平均はともに12.9品目なので、ベンチャー/アカデミア発の追い上げは急だ。米国と欧州では、ベンチャー企業・大学等発がそれぞれ年平均で14.5と12.1品目となり、大手製薬企業や中小製薬企業よりも多くなっている。



出典：上図と同じ
* 2008年と2017年の値は2年間の平均値

新薬に占めるベンチャー企業・大学等発の割合の推移を示したのが左のグラフ。日米欧ともに増加しており、特に2017年の米国と欧州では50%を超えている。日本でも、米欧に比較して割合は低い、この10年間で約2倍に増加している。

新薬の研究開発を取り巻く環境は大きく変化している。ベンチャー企業が主要な創出企業になってきているのはその表れだ。

新規治療法のアイデアの出自は新薬の創出企業と一致するとは限らない。真の源流を求めて、さらに創薬研究の上流を遡ってみれば新たな潮流が鮮明になってくる。

[OUVC 投資部第3グループ調査役 西角文夫(Ph.D.)]